2025 年度 Future Design プログラムの最終報告会記録
Record of Future Design Program Final Report Meeting in 2025

関西大学教育開発支援センター
Kansai University, Center for Teaching & Learning

キーワード　SD、人材育成、FD ／ SD, Human Resource Development, FD

1.　はじめに

Future Design プログラムは、学生、教員、職員が連携してこれから取り組むべき課題を発見し、社会の変革に対応し、時代に即した教育を展開できる能力を育成することを目的とする三者協働の研修プログラムである。グループワークを中心に、教育の質や学びの場の創出、学生支援、情報発信など多角的な視点から議論を深め、最終的には実践的な提案を取りまとめる。多様な参加者との対話を通じて、分析力・企画力・共創力を養い、大学の未来を共に描くことを目的としている。

企画・運営は教育開発支援センター「FD/SD 連携プロジェクト」が担った。今年度のテーマは、『学生・教員・職員が共に考える「学生がもっと学びたくなる関西大学」』とし、関西大学の現状を明確にするとともに、強みや弱みを把握したうえで、具体的に関西大学の魅力を高める施策を提案する内容とした。

本プログラムは、2025 年 10 月 10 日から 10 月 31 日まで、毎週金曜１限（9：00〜10：30）、全４回で構成され、第３回目終了後に各グループによる最終報告会の機会を設けた。第１回では教育推進部教授より、他大学の先進事例の紹介および「学生時代の学び」を振り返るワークを行い、前半では先進事例を通し教育改革の方向性について理解を深め、後半では自身の学生時代の経験を振り返ることで、大学構成員としての立場と学習者としての視点を往還的に捉える試みがなされた。また、第２回と第３回では、最終報告会に向けたグループワークが行われ、各班が発表テーマを設定し、提案内容の具体化に向けた議論を重ねた。（図１）

図１　広報用チラシ

本プログラムは、学生・教員・職員による三者協働の混合グループを編成して実施した。対象者については、学生は関西大学における学習支援・学生生活支援・大学教育等に関心を有する者を募集し、教員は専任・非常勤を問わず広く周知を行った。職員については、人材開発課と連携し、職員研修の一環として募集を実施した。その結果、学生７名（35.0%）、教員４名（20.0%）、職員９名（45.0%）の計 20 名が参加し、１グループ４名の計５グループに編成した。グループ分けに際しては、可能な限り三者が均等に配置されるよう配慮した。

本稿では、2025 年 10 月 31 日に開催した最終報告会（図 2）において、各グループが報告した内容を記録として残す。

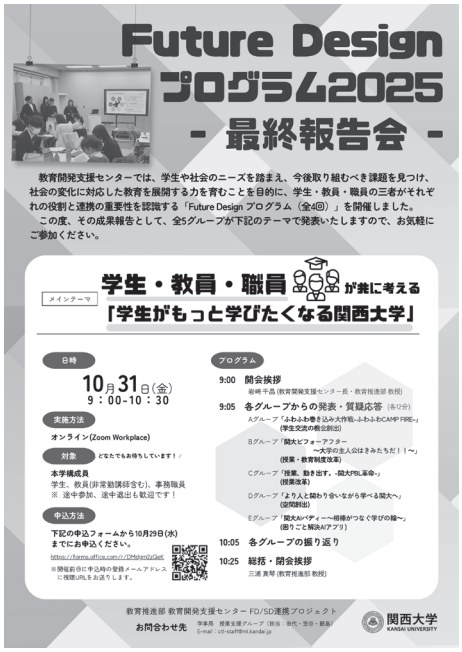


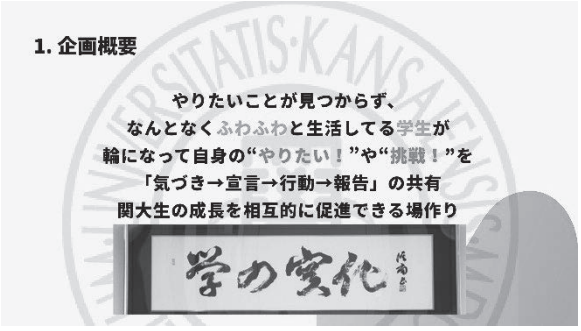
図２　最終報告会広報用チラシ

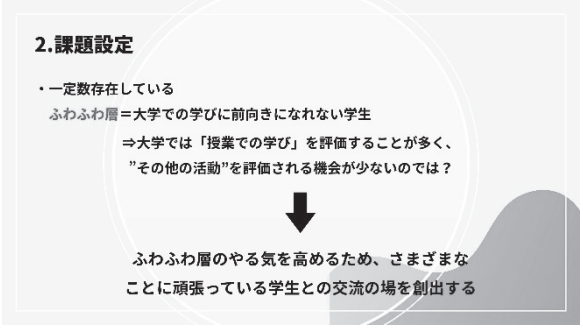
2.　各グループの発表内容

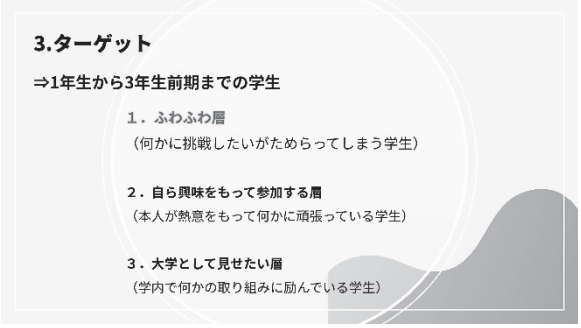
全５グループの発表内容（スライド）は次のとおりである。

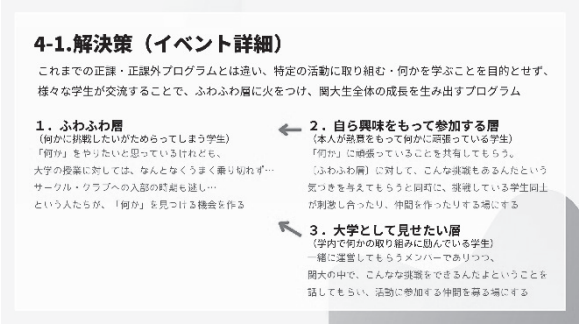
2.1.　Ａグループ「ふわふわ巻き込み大作戦 - ふわふわ CAMP FIRE -」

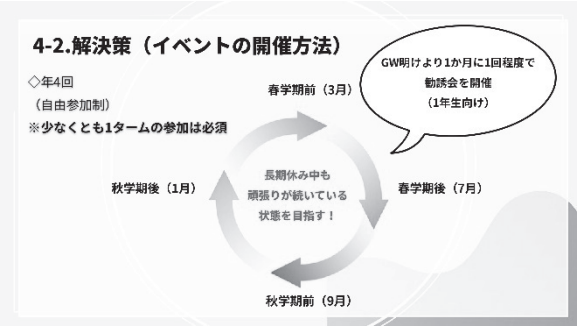
本田　貴人（商学部生）、溝口　侑（教育推進部特別任用准教授）、上田　和葉（入試広報Ｇ）、細野　真（初等部・中等部・高等部事務室）





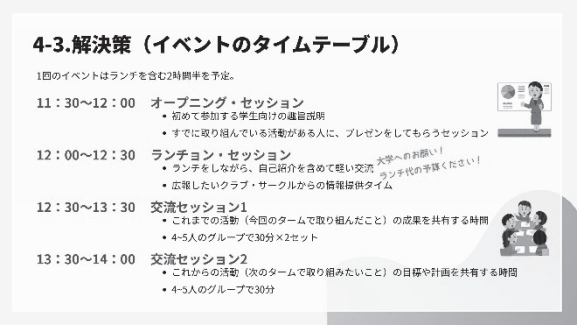


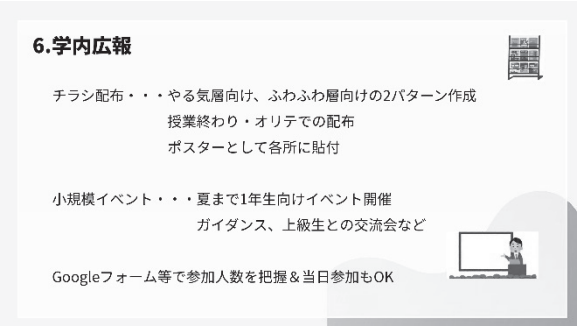


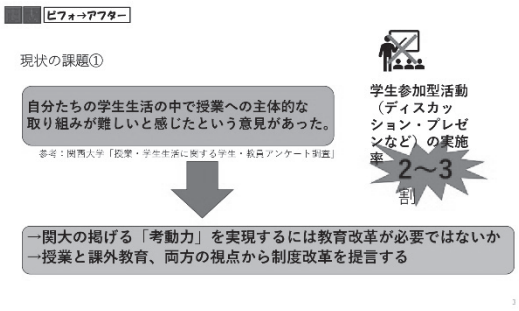


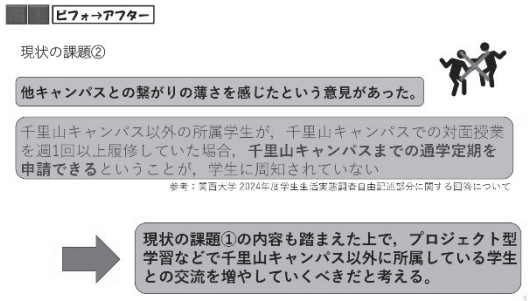
2.2.　B グループ「関大ビフォーアフター ～大学の主人公はきみたちだ！！～」

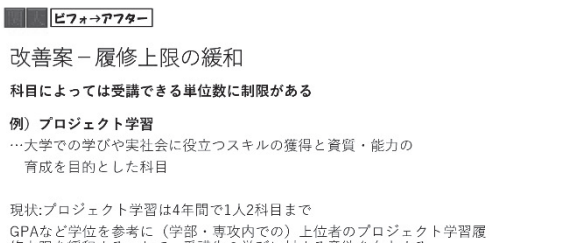
福塚　勇汰（文学部生）、森田　真実（社会学部生）、大森　一毅（学長課）、高橋　名香(教務事務／教務第 2)

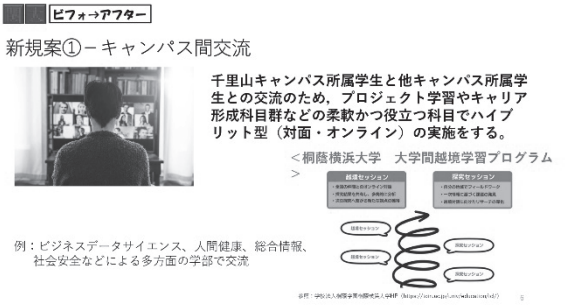


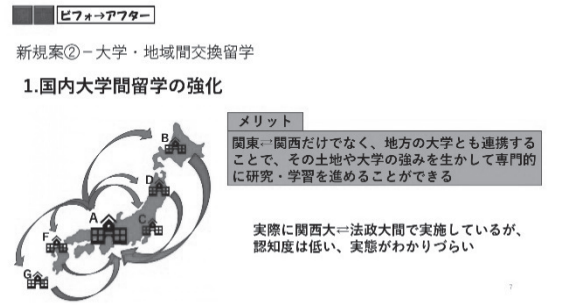


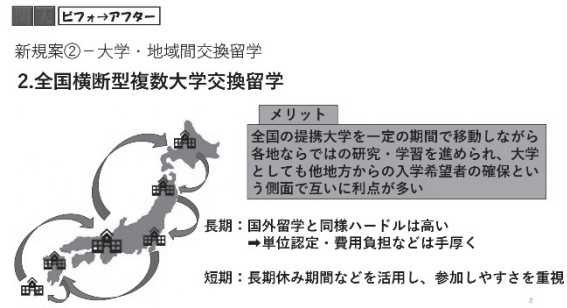


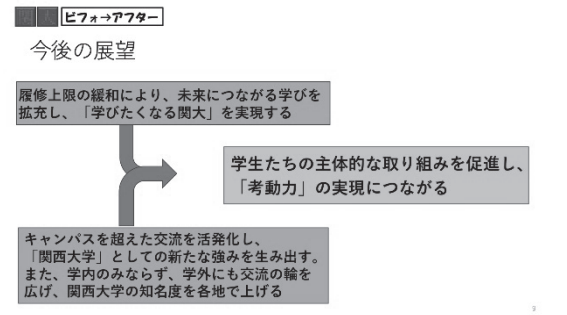












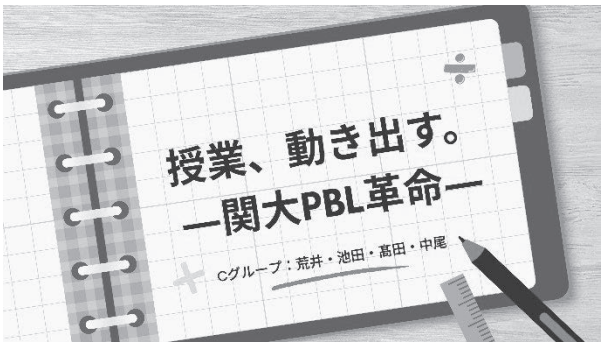
参考文献

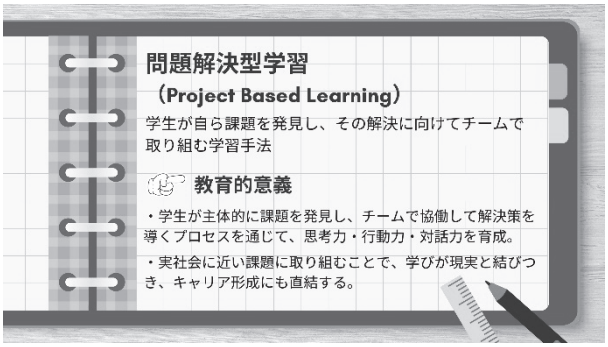
・関西大学　学生生活支援グループ　2024年度学生生活実態調査自由記述部分に関する回答について
https://www.kansai-u.ac.jp/gakusei/support/assets/research/2024jittaichousakaikou.pdf（閲覧日:2025/10/24）
・学校法人桐蔭学園桐蔭横浜大学　InterCollegiate Cross-Boundary Learning Program －大学間越境学習プログラム－
https://toin.ac.jp/univ/education/icl/

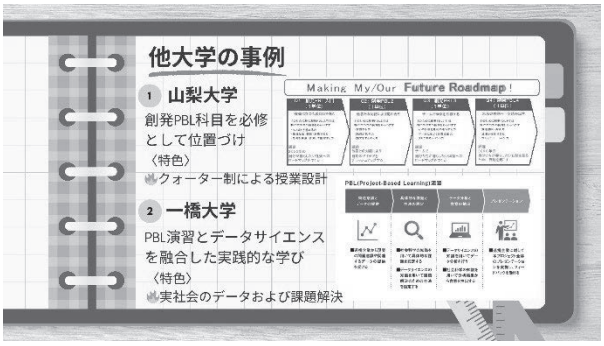
2.3.　C グループ

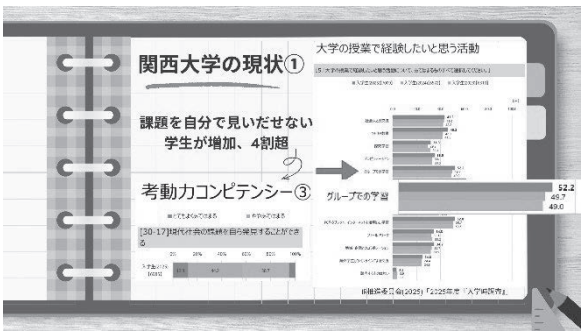
「授業、動き出す。- 関大 PBL 革命 -」

荒井　結加（商学部生）、中尾　悠利子（総合情報学部教授）、池田　ひな（地域・高大連 G）、髙田　凌佑（ミューズキャンパス G）





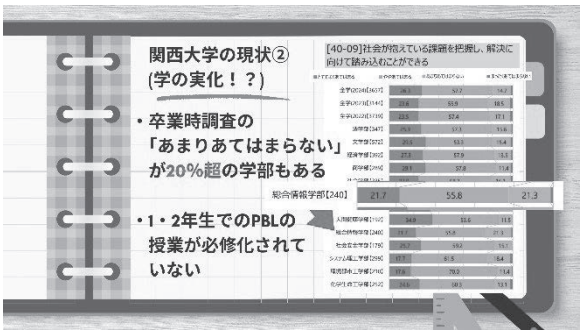


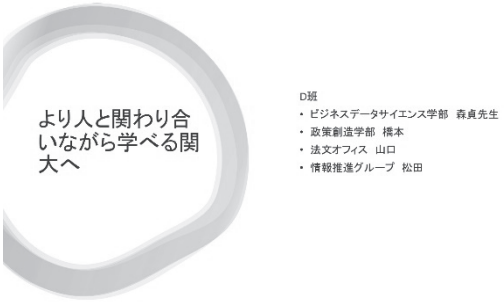


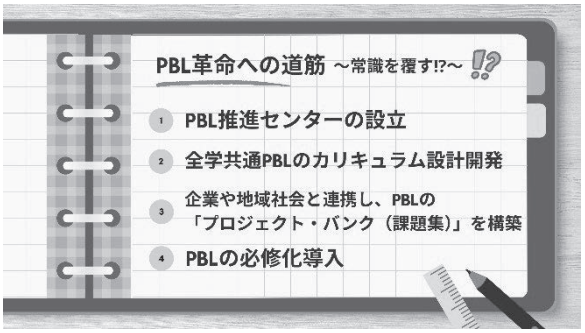
2.4.　D グループ

「より人と関わり合いながら学べる関大へ」

橋本　木実（政策創造学部生）、森貞　誠(ビジネスデータサイエンス学部 准教授)、松田　美菜子（情報推進 G）、山口　健太（学部院／法文）

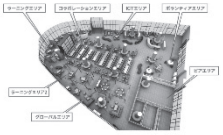


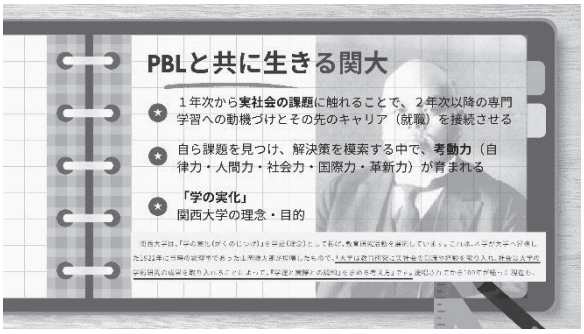




ラーニングコモンズ

- 各キャンパスに一箇所以上設置
- 学生の声：使い方は？周知が少ない！





アクティビティで脳を活性化しながら

定型的な机、いすを置かないラーニングコモンズ

バランスボールや四角いクッション等を置いて、それを自由に椅子、机として各自が自由に活用する

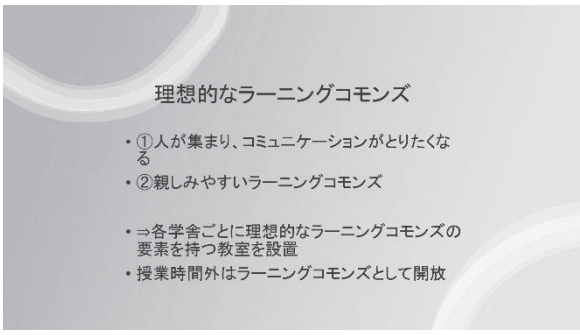
フィンランドの教室の一例

温かみのある学習スペースに

リラックスできる空間で、集中力・集客力を増やす

半個室で人の目を気にせず集中できる空間に

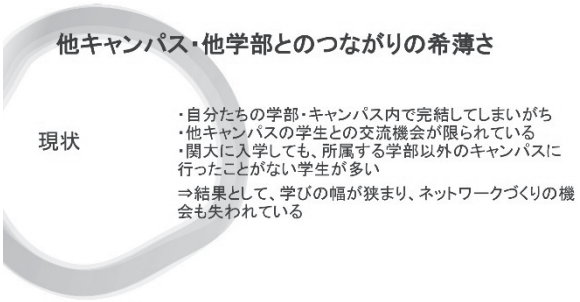
安田女子大学　ラーニングエリア

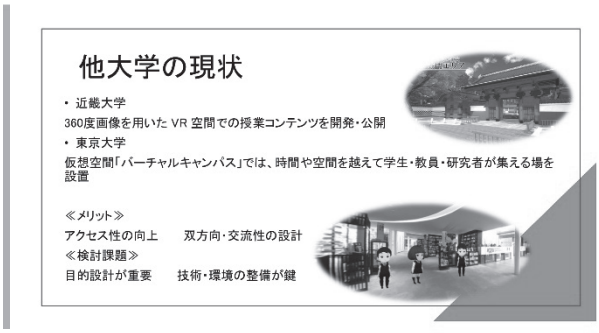


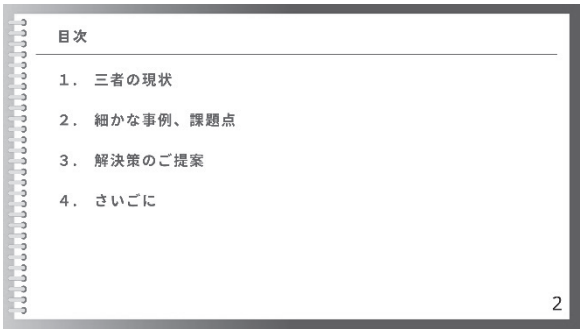
2.5.　E グループ

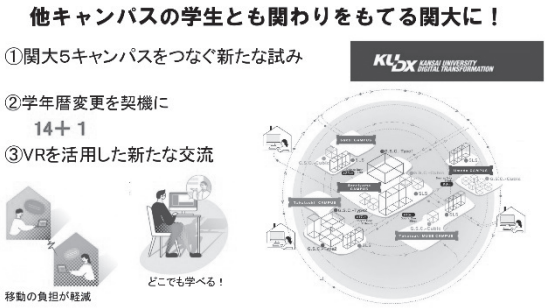
「関大 AI バディー ～相棒がつなぐ学びの輪～」

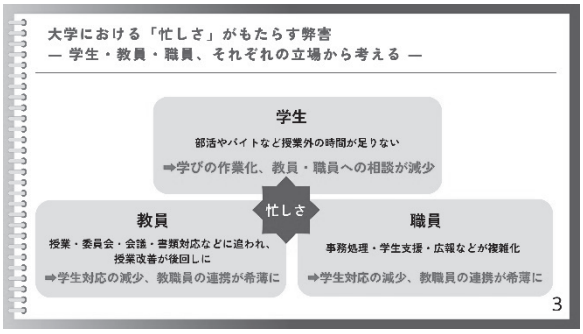
上村　凛（社会学部生）、吉田　彩乃（商学部生）、丸野　由希（ビジネスデータサイエンス学部教授）、ハンター・マーク秀樹（国際教育 G）

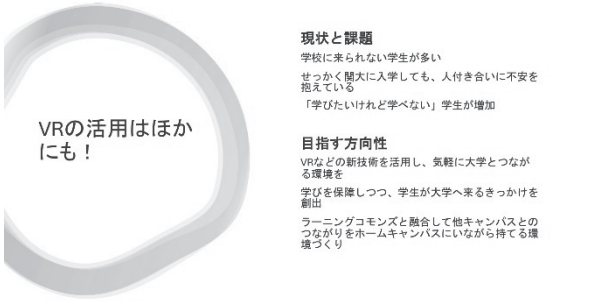


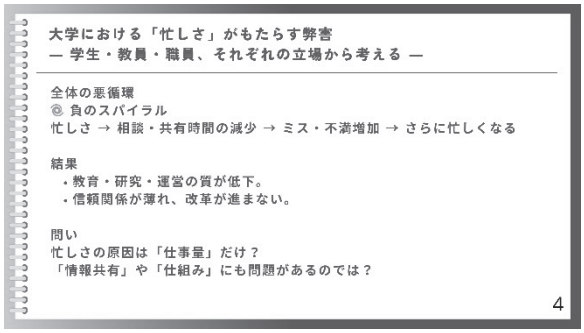












大学における「忙しさ」がもたらす弊害
― 学生・教員・職員、それぞれの立場から考える ―

全体の悪循環
◎ 負のスパイラル
忙しさ → 相談・共有時間の減少 → ミス・不満増加 → さらに忙しくなる

結果
・教育・研究・運営の質が低下。
・信頼関係が薄れ、改革が進まない。

問い
忙しさの原因は「仕事量」だけ？
「情報共有」や「仕組み」にも問題があるのでは？

4

事例１：締め切り等スケジュール管理が大変

多くの授業を履修する中で…

学生：どの授業の課題の締め切りがいつまでなのか忘れがちになる…

学生：自分たちでカレンダーにメモするけど、どうしても抜ける事がある…

LMS等の課題締め切りの通知はないので、学生が個人で予定を管理するがどこかで抜けてしまう

6

関大の学内システム

- インフォメーションシステム（お知らせ、個人伝言）
- 関大LMS（授業に関するお知らせ、メッセージ機能）
- 関西大学教務ガイド「KAN-CAN!」
- KICSS
- メール
- Teams（授業に関するお知らせ、チャット機能）

参考：KAN-CAN! 大学からの連絡について
https://www.kansai-u.ac.jp/kancan/studentlife/contact.html

多くの学内ツールが存在している

5

事例２：必要な情報の見落としなどが発生

履修ガイダンスについて、学生たちに個人伝言で連絡

職員：既読がつかない…。開催日も迫っているのに…
どうしよう！！そうだ、基礎演習の各教員にお願いして学生に「個人伝言」を見るように伝えてもらおう！

国際部主催イベントをサテライトキャンパスの学生対象とした個人伝言の開封率

	通知対象者数	開封者数	開封率
高槻	2194	138	6%
高槻ミューズ	1164	65	6%
堺	1398	108	8%
吹田みらい	394	57	14%

教員：授業で学生たちに「個人伝言」を見るように伝えました！

7

事例３：様々なサイトや学内施設、イベントを生かしきれていない

学生：重要な情報がどこにあるのかが分からない
アプリもいちいちログインする手間が面倒

学生：Future Designプログラムの参加募集を見落としてた。参加したかったなぁ…。

イベント告知が上手く伝わらず、学生・教職員の参加率低減や学べるチャンスを活かしきれていない

8

関大の課題

- 必要な情報を追いきれていない、見つけられない
- 必要な情報の見落としなどが発生
- 学内イベントなどの周知がうまく機能していない

忙しさの原因に？

最大の課題

学内システムの数が多く、
学生教員職員の三者とも使いきれていない

9

関大
AIバディー

関大AIバディーの導入　※バディー（buddy）＝信頼できる相棒

全学生・全教職員に自分専用のAIバディーを導入

在学中・在職中、24時間365日、AIバディーが寄り添ってくれます。
AIバディーの休暇日（＝システムメンテナンス日）も時々あるかも。

ハンター（職員）

関大AIバディーにできること
- 授業課題や予定管理のサポート
- 学内イベントなどをサジェスト
- 就学上や業務上のお悩み相談
- 在学中/在職中の個人の成長の見守り
- 学修ポートフォリオの作成
- 各部署AIとの連携

上村（学生）　吉田（学生）　丸野（教員）

11

三者が関大AIバディーに求める機能

学生
・講義の課題や提出締切日をカレンダーと連携して分かりやすく
・個人伝言や授業の休講など重要な情報は通知が来るようにしてほしい

教員
・予定管理機能で他者とのやり取りをサポートしてほしい
・業務に必要な情報を教えてほしい

職員
・学生の興味・関心にあった情報を確実に伝えたい
・学生教員とのスケジュールをすり合わせてほしい

12

関大AIバディーの裏側

実現可能性

関西大学教務ガイド「KAN-CAN!」、インフォメーションシステム、KICSSなどの既存システムで蓄積してきたデータをAIに学習させる。

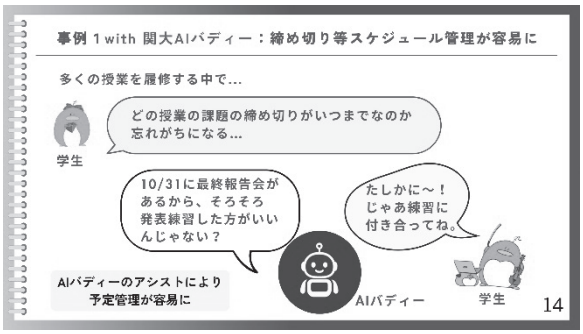
導入後は各部署で部署AIを育成（＝随時、情報更新）

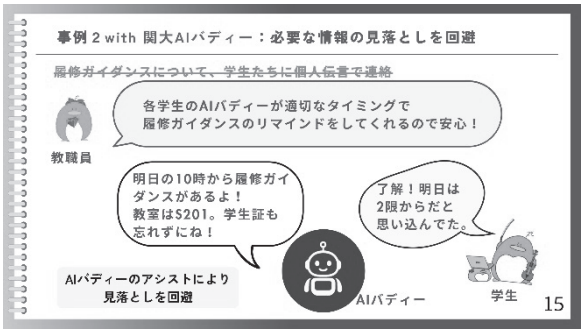
教育推進部　国際部　教務部　社会連携部　吹田みらいキャンパス事務室（BDS）

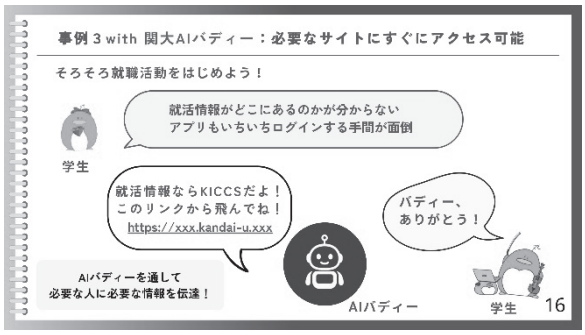
連携　連携

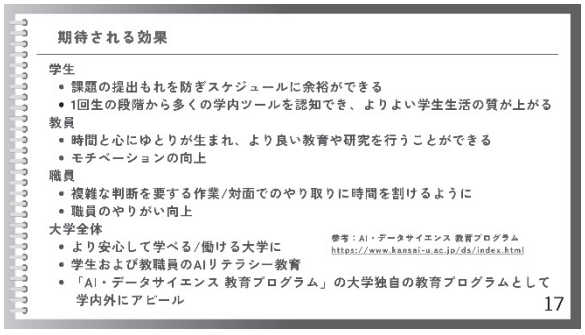
関大AIバディー

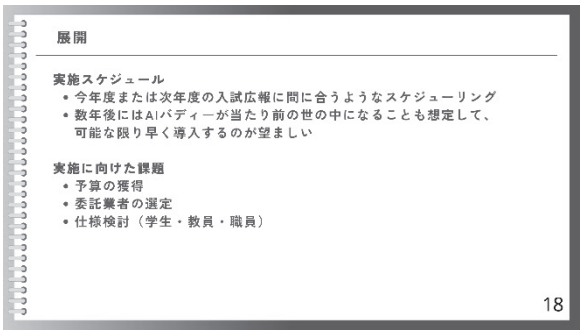
13

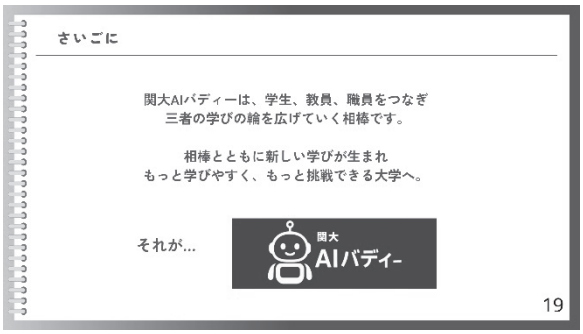












参考文献

関西大学教育開発支援センター（2025）「2024年度 三者協働（学生・教員・職員）によるFD/SD 研修プログラムの最終報告会記録」『関西大学高等教育研究』16, 85-94.

関西大学教育開発支援センター（2024）「2023年度 三者協働（学生・教員・職員）によるFD/SD 研修プログラムの最終報告会記録」『関西大学高等教育研究』15, 135-143.

関西大学教育開発支援センター（2023）「2022年度 三者協働（学生・教員・職員）によるFD/SD 研修プログラムの最終報告会記録」『関西大学高等教育研究』14, 111-123